医学生・看護学生と地域住民をむすぶコミュニケーションマガジン

めでる

vol 21
2023. 1

「朝の伊吹山（米原市）」
（撮影：地域包括ケアセンターいぶき　畑野秀樹センター長）

Contents

2 特集
夏の宿泊研修 in 彦根市・米原市

3 勉強会講演

4 各病院研修(オンラインZoom)

12 参加学生の感想

15 紹介
滋賀県医師キャリアサポートセンター

16 編集後記

NPO法人「滋賀医療人育成協力機構」広報誌

●特集

夏の宿泊研修in彦根市・米原市

令和4年8月29日(月)に「彦根市・米原市方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し研修を実施しました。当初の予定では彦根市・米原市方面の各施設を訪問し、見学等を行う予定でしたが、コロナの感染拡大の影響により、実地見学を中止せざる得ない状況となり、急遽、オンライン配信に変更しての研修となりましたが、学生14名（医学生10名、看護学生3名、滋賀県立大学人間看護学部1名）が参加しました。勉強会にはリモートで、里親やプチ里親の方々も参加していただきました。

彦根市立病院

金子院長から病院の概要についてお話いただいた後、在宅診療科の兒玉医師より「在宅医療支援室・在宅診療科の活動」についてご説明いただきました。
最後に、上村看護部長より「地域医療・在宅医療の取組」についてご説明いただきました。

在宅診療で特定行為を行える看護師が活躍していると言う話や、医師不足のお話もいくつかの病院から出てきており、より特定行為を行える看護師が必要になってきているのだと言うことを学ぶことが出来た。私自身そういった専門的な知識を持った看護師に成りたいと以前から考えていたが、今回の研修を通して改めて将来どういった看護師になりたいのか考える機会となった。（参加学生感想より）

各病院や診療所の先生方・スタッフの皆様が地域医療の今を支え、未来へと繋いでいこうとする熱意と努力が十分に伝わってきたため、非常に有意義な研修でした。（参加学生感想より）

豊郷病院

横田院長から自己紹介及び病院の概要についてお話いただいた後、ご兄妹で九州から入職された看護師の方に豊郷病院での働き方についてお話いただきました。

中核病院、診療所それぞれが地域に根差し、近隣住民の健康と生活を守っていることを学びました。（参加学生感想より）

医療スタッフの数が足りていない中、各病院が急性期、回復期などの役割を分担することで広い地域の隅々に医療を提供していることを知りました。また、介護者が休息するためのレスパイト入院が導入されていることを知り、時代の流れにあった新しいシステムが構築されているのだと分かりました。（参加学生感想より）

米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」

中村センター長から、ご自身の歩まれた道、施設の立ち上げなど、高齢者だけではなく、小児や障がい者の方が生き生きできる地域づくりを目指した充実した地域包括ケアの取組みや、患者さん・ご家族の方の声も聞かせていただき、米原市における地域包括ケアのあり方について学ばせていただきました。

地域社会と医療との結びつきが顕著に表れているのが湖北医療圏でした。地域包括ケアを高齢者だけでなく、小児に拡張していく「ふくしあ」さんの考え方は、持続的な地域社会の形成につながるのではないかと考えました。（参加学生感想より）

地域包括医療の病院は赤ちゃんからお年寄りの方までを対象とし、様々な病気を診るということを主な業務とされていますが、それ以外にも健康診断をしたり、地域の行事に参加したりされているということを知りました。それらのことにより、地域の人たちと病院が密接に関係を築くことができるのだということに気づきました。（参加学生感想より）

地域包括ケアセンターいぶき

畑野センター長から施設の建設に至った経緯や概要についてお話いただきました。赤ちゃんからお年寄りまで診ることのできる地域包括ケアのまちづくりに貢献されてきた流れなどについて、在宅医療の思い・大切さについて学ぶことができました。

地域包括ケアという言葉がどの病院や施設のお話からも出てきており、それぞれの施設での役割は違うが今後地域包括ケアをより推進していくことが大切だと感じた。（参加学生感想より）

地域の方々が安心して在宅療養で過ごせるように、訪問診療を開業医の方々と連携して行っているというお話は大変興味深いものでした。（参加学生感想より）

地域のことと、医療機関同士の関係性なども知ることができ、すごく勉強になりました。実際に訪れたかった思いもありますが、凝縮した形でそれぞれのお話をまとめて聞けたことで、かえってそれぞれの特徴や関係のようなものを比較する見方ができたように思います。（参加学生感想より）

◆勉強会◆

18:00～19:00　講演・意見交換等

講演：『地域における彦根市立病院の役割』
彦根市立病院
循環器内科部長 兼 在宅診療科部長
宮澤　豪　氏

今回も地域の方をはじめ沢山の医療関係者等の方々にご協力いただき、学びの多い研修となりました。ありがとうございました。

～ 里親学生支援室からのお知らせ ～

将来、滋賀県内で働くことに興味を持っている学生(里子)に対して、県下で活躍する一先輩として、学生生活や将来の進路などの相談にのるアドバイザー(里親)を募集しています。
本事業に賛同していただける方は、里親学生支援室までご一報ください。

【お問い合わせ先】滋賀医科大学里親学生支援室
TEL：077-548-2072
E-mail：satooya@belle.shiga-med.ac.jp
URL：http://www.shiga-med.ac.jp/~satooya/

「勉強会(講演・意見交換会)に参加して」

研修(講演・意見交換会)に参加して

彦根市立病院　循環器内科部長
兼　在宅診療科部長　宮澤　豪

①講演『地域における彦根市立病院の役割』の概要

彦根市立病院は、湖東地域における急性期病院として『救急搬送は絶対に断らない』という信念を掲げて、毎年救急車受入れ率99%以上を保っております。一方で回復期病院としての役割を担うため、2018年10月より41床の地域包括ケア病棟を開設し、急性期治療を終えた後に、自宅に帰るためのリハビリテーションが必要な患者の受け皿にもなっております。

入退院支援室

また、日本の深刻な高齢化の進行による医療介護体制のひっ迫を防ぐため、国は地域包括ケアシステムの構築を推進しています。湖東地域における地域包括ケアシステム構築の中心的存在が彦根市立病院の地域連携センターです。

入退院マネジメント委員会での事例検討

当院の地域連携センターは、地域医療連携室・患者サポート窓口・病床管理・患者家族支援室・在宅医療支援室（在宅診療科）・訪問看護ステーションと多くの部署を抱えております。地域医療連携室は、病院間連携・病診連携を円滑に進めるよう調整を行います。患者サポート窓口は、医師には聞けなかった患者の悩みなどを積極的に聴取し、問題があれば早急に解決します。病床管理は、院内の入退院調整だけではなく、急性期病棟の確保のため他病院と連携し、速やかに患者を受け入れてもらう調整なども行います。患者家族支援室は、入院中の患者で退院後に介護サービスなどが必要な場合に、患者や家族、ケアマネージャー、施設、慢性期病院などと連携し速やかな退院調整を目指しています。在宅医療支援室および訪問看護ステーションは、退院後に在宅医療や訪問看護が必要で、特に末期がん患者や神経難病といった重症な症例への介入をしています。

胃ろう交換

退院前カンファレンス フィードバックカンファレンス

このように彦根市立病院のスタッフは、湖東圏域における地域包括システムの構築を進め、これから起こる高齢化社会に一丸となって立ち向かっています。そういった地域医療を支える一員として皆さまと共に働けることを楽しみにしています。

②研修の感想

退院前訪問

里親学生支援という名前は良く聞いていましたが、実際に関わったことは初めてでした。今回はオンラインのみの参加となりましたが、それでも角野先生を筆頭に指導者の熱い想い、すべての学生の地域医療への強い関心がひしひしと伝わってきました。将来これだけ多くの学生が、滋賀県の地域医療を担って頂けることは我々にとってとても心強く感じました。これからも是非機会があれば参加したいと思います。この度は本当にありがとうございました。

■各病院研修（オンラインZoom）

■将来の医療人への期待

彦根市立病院　事業管理者兼病院長　**金子　隆昭**

８月29日にはオンラインの研修会にご参加いただき、ありがとうございました。彦根市立病院が立地する湖東保健医療圏は、医師の偏在の影響を強く受け、診療所の医師の高齢化も進み、在宅医療に関わる診療所が少ない地域です。当院は地域の急性期を担う病院ですが、地域で求められる医療を担うのは公立病院の責務と考え、平成28年４月に在宅診療部門を設けました。これも当院の特徴の一つと言えます。現在は３名の医師で体制を整え、在宅医療に従事しています。

現在、日本の医療には医師の働き方改革、将来の人口減少を見据えた地域医療構想、医療スタッフの地域偏在、そして新興感染症への対応など、大きな課題がいくつもあります。その中でも最大の課題は、令和６年度４月から本格運用されます働き方改革です。私が研修医になったばかりの頃には、医師は寝る間も惜しんで働くのが当たり前、早く帰宅するような医師は一人前になれない、などと指導されてきました。土日祝日も出勤して患者さんの診療をすることが医師の務めと考えられている時代でした。私も最新の知識と技術を習得しようと頑張ってきました。多少体調が優れなくても、長時間の手術をこなすこともありました。自分の選んだ道ですから、どのような激務の中でも音を上げることはありませんでした。このような医師が働き方改革を推し進めなければならないというのは、なんという皮肉でしょうか。

働き方改革の根底にあるのは、医師は労働者であるということです。多くの医師は雇われて働いている感がなく、労働者だという認識はないと思います。現在、医師は自分の働き方を根本から変えることを求められているのです。しかしながら、働き方改革を拙速に推し進めてしまうと、地域医療に甚大な影響を及ぼすことは間違いありません。特に医師が少ない地域では、救急医療は成り立たなくなり、日本の医療は大きく後退してしまいます。

24時間働ける医療人を目指す時代は終わりました。これから医療人となる皆様には、自分よし、患者よし、地域医療よしの「三方よし」を意識できる医療人になってほしいと思います。働き方改革をしなければならない時期があったな、と回顧できる日が一刻も早く到来することを願っています。

各病院研修(オンラインZoom)

彦根市立病院

「住みなれた地域で健康をささえ、安心とぬくもりのある病院」を基本理念として、良質で安全な医療の提供に努めています。

病院概要

開　設　者：彦根市長
代　表　者：彦根市病院事業管理者　兼　彦根市立病院長　金子　隆昭
所　在　地：滋賀県彦根市八坂町1882番地
連　絡　先：TEL 0749-22-6050　　FAX 0749-26-0754
ホームページ：http：//www.municipal-hp.hikone.shiga.jp
開　　設：1891年4月26日
病　床　数：一般424床（内 緩和ケア20床、ICU・CCU8床）
結核10床
感染症4床
診　療　科：29科（院内標榜含む）
内科、消化器内科、血液内科、糖尿病代謝内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、心療内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、小児科、外科、乳腺外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、脳神経外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、形成外科、麻酔科、放射線科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、病理診断科、在宅診療科（院内標榜）

各病院研修(オンラインZoom)

米原市の福祉と幸せを支える「ふくしあ」

米原市地域包括医療福祉センター
「ふくしあ」センター長　中村　泰之

米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」は、平成27年10月に開設された比較的新しい施設です。

「ふくしあ」という愛称は、福祉と幸せを掛け合わせて生まれた言葉です。また、交友・信頼・暖かい心という花言葉を持つフクシアという花の名前にもかけて、利用者とスタッフが信頼し合い、地域医療の拠点となって、米原市の「しあわせ」を一つでも支える施設になれるよう、日々運営しています。

センター内には、保健・医療・福祉サービスを包括的に提供する機能があり、在宅24時間支援診療所の近江診療所、病児・病後児保育室おおぞら、児童発達支援センターてらす（児童発達支援、保育所等訪問支援、放課後等デイサービス、児童発達相談支援）、地域包括支援センター、認知症初期集中支援チームという多種多様な業務を行う施設で、世代を超えた地域の方々に寄り添う機能になっています。

私たちが掲げる基本方針は、「全世代に対応する地域包括ケア」の実現を目指して、

①地域とのつながりを大切に包括した医療・福祉を推進します。

②つながりをますます広げていき、地域の多職種連携を強化します。

③常に感謝の気持ちを大切に少しでも社会に貢献できるように努力します。

とし、地域の方々や関係機関のすべてがつながりを持って、地域全体で高齢者や小児、障害のある方等の生活を支えるための中心となることを目標としています。

８月29日の研修では、この施設の紹介や私の経験談、ターミナルケアの３例（102歳　女性、43歳　女性、７歳　男の子）などの紹介をしましたが、それは、多くの人のつながりがあって出来てきたことです。

医療関係者だけでなく、地域の方々、他の分野の方々も常につながりあっておくことが、あらゆる難題を解決してくれると信じています。

学生の皆さんには、次の言葉を送りました。

おたがいに助け合わないと
生きて行けないところに、
人間の最大の弱みがあり、
その弱みゆえに
おたがいに助けあうところに、
人間の最大の強みがあるのである。

各病院研修(オンラインZoom)

米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」

子供から高齢者まで全世代の方々が、少しでも住みやすい地域を目指して

施設概要

管理者・所長	センター長：中村　泰之
運営形態	開設者：米原市
	運営者：公益社団法人　地域医療振興協会
所在地	〒521-0083　滋賀県米原市新庄77
連絡先	TEL：0749-54-2127
ホームページ	https://fukushia.jadecom.or.jp
規模・機能	無床診療所（総合診療外来・小児科：診療科を問わずご相談ください）
併設機能	通所・訪問リハビリ、病児・病後児保育（おおぞら）、児童発達支援（ひまわり）、児童放課後等デイサービス（たいよう）、保育所等訪問支援（さくらんぼ）、児童計画相談、地域包括支援センター

「ふくしあ」　正面

平成30年5月 皇太子同妃両殿下(現 天皇皇后両陛下)によるご視察

各病院研修(オンラインZoom)

地域と共に歩む

公益財団法人　豊郷病院　病院長　横田　徹

皆さん、はじめまして。豊郷病院の横田です。

先ずは簡単な自己紹介です。私は滋賀医科大学医学部７期生で、産まれてから大学院まで滋賀で過ごし、その後、滋賀を離れたこともありましたが、現在も大津在住です。私の先祖もずっと滋賀の出身と聞いています。在学中は剣道部に在籍し、卒後、母校の外科学講座の小玉正智教授（当時）のお世話になり大学院に進学後、関連病院に勤務しました。４年前より、学生当時の剣道部顧問（友吉唯夫名誉教授（故人））とのご縁で現職の豊郷病院の病院長を拝命しています。

今回は、今年の夏の研修で紹介した、豊郷病院の歴史と、湖東地域における当院の現状と役割、今後の展望についてお話します。研修では、宮崎の日南から看護師として働いて頂いている兄妹ナースに、宮崎県人から見た当院の印象について話して頂いたので、そのことについてもお伝えします。

病院正面

まず豊郷病院の歴史です。犬上郡は丸紅、伊藤忠を始め有名な近江商人の出身地です。一方、100年前までは農業中心で貧しく、病院はありませんでした。九代目 伊藤長兵衛（丸紅の初代社長）が実娘を亡くされたことをきっかけに、大正14年、有志による多額の寄付で当院が建てられました。当時、18床の病院ではじまり、時代とともに拡大し、現在は介護事業を含む法人組織にまで成長しています。

次に病院の現状ですが、現在、滋賀医科大学の各講座より派遣して頂いている医師を中心とした診療科で構成されています。当院の特徴の一つである精神疾患診療に関しては、精神救急から認知症疾患まで広くカバーしています。湖東地域は湖南に比べて人口あたりのベッド数が少なく、とくに精神疾患のベッド数は滋賀県全体の半分、全国の３分の１程度しかありません。精神病床数の増床は認可されませんが、措置入院、医療保護施設入院など適切に判断し、精神科救急にも対応しています。また近隣地域である、犬上郡の３町（多賀町、甲良町、豊郷町）や愛知郡愛荘町は開業医の先生が、彦根市と比べて極めて少ないため、当院のもう一つの特徴として、地域の住民がかかりつけ医の感覚で当院を受診されているということです。お寺や学校の様に、当院はこの地域に愛され、大切にされていると感じています。

医療・介護で重要視しなければならないのは、人と人のつながりは勿論のこと、患者さんのバックグラウンドや考えの違いに配慮した診療です。一方、私達医療人のミッションは、多少の自己犠牲が生じ

各病院研修(オンラインZoom)

ても、自分の時間を患者さんのために使い、最適、最善の医療を提供することです。このためには、時間と費用の無駄を省き、できることは合理化するシステム改革が必要です。また、地域医療では、特に、社会生活を念頭に入れた医療が欠かせません。地域で医療を行うということは、患者さんにとっても医療者にとっても生活の一部であり、同時代に地域で共に支えあう仲間です。われわれ医療人は、ともすると純粋に医学的適応、医療的な側面のみを考えがちですが、国民皆保険診療とはいえ、医療以外の生活に係る費用や社会保障の現実は無視できません。豊郷病院は2013年より公益財団法人であり、一層、公益にかなった役割が求められています。当院は公益財団法人としてのプライドを持ち、今後も地域に密着しながら、他の医療機関と連携して湖東地域の医療を支えていかねばならないのです。

今回の研修で、宮崎出身の兄妹ナースは、当院のPNS（Partnership Nursing System）について紹介してくれました。なかでも、彼らが田舎で高齢者と共に育ってきた環境と、この地域の状況が似ているという話は、印象に残っています。湖東地域での暮らしは、出身地に比べてとても寒いと思われますが、職場の仲間とびわ湖に遊びに行き、エンジョイしているようでした。当院の看護顧問（前看護部長）も宮崎出身であり、この地域で結婚して40年以上になるとのこと。今までに224名の宮崎県人が就職し、現看護部長も宮崎出身で、現在でも33人が現役で働いています。当院と宮崎はご縁が深いようです。

私が皆さんに是非心がけてもらいたいことは、臨床でも研究でも、これと「決めたこと」は、是非とも途中で諦めずに求め続けてほしいということです。そして「時間」が大切です。限られた「時間」のなかで、どのようなビジョンで実践していくのかを考えなければいけません。途中の失敗や経験を糧に、適宜修正を加えながら、決してぶれることなく、周りの同僚の処遇を気にせず、課せられた義務を果たしていけば、自ずと周りの環境が変わり、気がつけば、当初考えていた自分と随分異なる自分に成長しているのではないでしょうか。皆さんには、限りないポテンシャルと、限られてはいるものの多くの時間が残されています。ほかの人には真似が出来ない自分を作り上げ、社会に貢献していただくことを期待しています。

最後になりましたがこの様な機会を与えていただいたNPO法人 滋賀医療人育成協力機構の皆さま、相見良成教授、向所賢一教授をはじめ滋賀医科大学「里親学生支援室」の皆さまに心より御礼申し上げます。

公益財団法人 豊郷病院

基本理念

“豊かな郷で 心と体の健康を 家族のように”

所在地：〒529-1168　滋賀県犬上郡豊郷町八目12
電　話：0749-35-3001　ＦＡＸ：0749-35-2159
ＵＲＬ：http://toyosato.or.jp
E-mail：toyosato@toyosato.or.jp

回復期リハビリテーション病棟

各病院研修(オンラインZoom)

地域包括ケアセンターいぶきへようこそ

地域包括ケアセンターいぶき　センター長　**畑野　秀樹**

滋賀医大の皆様、先日は地域包括ケアセンターいぶきの施設紹介をする機会をいただき、ありがとうございました。

米原市は、滋賀県の北東部にある人口39,000人のまちです。ケアセンターいぶきは、伊吹山の近くに位置しています。診療所と介護老人保健施設（老健）という入居施設、通所リハビリテーション（デイケア）、居宅介護支援事業所などが合わさった複合施設です。この施設は、地域の住民が安心して最期まで地域で過ごせることを目標として、2006年にオープンしました。現在、常勤医師２名、非常勤医師４名のほか、看護師・介護士・理学療法士・作業療法士・ケアマネジャー・歯科衛生士・管理栄養士・事務員などで75名ほどのスタッフがいます。外来の患者さんや往診などは、米原市の東部（旧伊吹町、旧山東町）を担当しています。

往診先にて研修医さんと

診療所は無床の診療所としていますが、在宅療養支援診療所として在宅療養の人に対しては24時間365日体制で診療しています。90～100名ほどの在宅患者さんがいらっしゃいますが、最近は夜間に呼ばれることは少なくなっています。これは日中に体調の変化があると、ヘルパーや看護師・ケアマネジャーから連絡が入り、診察時間のうちに対処ができているからです。多職種連携が実践できている成果だと考えています。

入院するベッドのない米原市においては、米原市全体を病院ととらえ、電話はナースコール、道路は廊下、自宅は病室と考えています。医師や看護師・リハビリスタッフが自宅に訪問してサービスを提供しています。

こども園の健康診断の風景
（研修医さんに診てもらっています）

３年前より新型コロナウイルス感染症が流行しています。発熱や風邪症状のある方は施設の外に設けた発熱外来で診察をしています。ピークの頃は１日20人を超える患者さんが発熱外来を受診され、てんやわんやの状況でした。N95マスクやフェイスガードなどフル装備で感染予防をしていましたが、８月には自分がコロナウイルスに感染してしまい、10日間の自宅療養をする羽目になりました。幸いに残りのスタッフや、研修医さんに助けてもらい、なんとか施設を休診にすることなく乗り切ることができました。自分では注意をしていたつもりでしたが感染し、みんなに迷惑をかけてしまったと反省しています。

訪問看護は、診療所看護師が出動しています。寝たきりの人や末期がんの人などの看護を行い、医師とは違う看護の目でチェックしてくれますし、話もしやすいようで患者さんも本音を言ってくれる

各病院研修(オンラインZoom)

ようです。変化のあった症例について、翌朝のミーティングで医師･看護師間で情報を共有しています。スタッフ間の仲がいいのが強みです。

居宅介護支援事業所には、４名のケアマネジャーが配置されています。医師が患者の医療面をみるのに対し、ケアマネジャーは生活面をみてくれます。利用者の状態や、家庭の状況、経済的な面も踏まえて、ケアプランを立案し、施設内外の多職種で利用者を支えています。

リハビリスタッフは６名で、理学療法士と作業療法士がいます。病気になる予防の段階から、病気になった後のリハビリまでを担当しています。彼らは地域の予防事業に参加し、ケアセンターや他の医療機関に受診していない住民への働きかけを行っていますし、脳卒中や神経難病、骨折などの病気になった後のリハビリを行っています。

デイケアは、定員25名で米原市内の人を対象に送迎し、リハビリを行っています。入浴サービスは隣接する社会福祉協議会のデイサービスにお願いし、ケアセンターいぶきのデイケアには入浴サービスがありません。本当にリハビリを希望する人が来られており、熱心なリハビリサービスが提供されています。

介護老人保健施設（老健）は60床あり、地域住民の生活を支えています。３～６か月間入所する「ロング」と、３～14日間の「ショートステイ」があります。ケアセンターいぶきはこれまでは、在宅で過ごす人の支援のためにショートステイを30床にするなど力を入れてきました。最近は、過疎化や老老介護などの問題があり、なるべく長く入所させてほしいという希望があり、「ロング」の入所期間を延長しています。また、施設での看取りにも積極的に対応しています。これは、住み慣れた場所がケアセンターいぶきの老健であるならば、スタッフと施設利用者・家族との信頼関係を重視し、病院への転院という環境の変化を少なくし、利用者や家族の目線に立って対応しようというものです。

滋賀医大の学生さんは、多くの人は循環器科や脳外科などといった臓器専門医になっていかれるのではないでしょうか。大学病院や地域の基幹病院を受診したり入院したりできる人は、住民の中のごく一部であることを知ってほしいと思います。地域住民の多くは、体に異常を感じた時、身近な診療所を受診されています。患者さんによっては、どこに原因があるのかわからない状態で受診される人も多くいらっしゃいます。病気の初期段階から診療にあたり、家族とも連携しあうプライマリケア医は、現在、総合診療専門医あるいは家庭医とも呼ばれ地域で活躍しています。患者さんに近い立場で、患者さんの心と体に寄り添いながら診察をするというのも、プライマリケアの一つの魅力です。是非、皆さんにも「地域医療」を体験していただきたいと思います。

センター外観

地域包括ケアセンターいぶき

地域の子どもから高齢者までの住民が、最期まで安心して暮らせるように

所在地：〒521-0314　滋賀県米原市春照58-1
電　話：0749-58-1222　FAX：0749-58-8036
ＵＲＬ：https://www.jadecom.or.jp/jadecomhp/ibuki/

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学　医学科第１学年　吾妻　愛子

今回は、現地に訪問するかたちでそれぞれの施設を見学することは叶いませんでしたが、施設の取り組みや役割、工夫について詳しく知ることができて良かったと感じます。訪問することでは知ることのできない、働いていらっしゃる方の思いなどを、今回のお話でたくさん聞かせてもらえることができたと思います。地域の住民の方々を支援する方法は沢山あるのだなと改めて感じました。また訪問する機会があれば、今度はその施設ごとの雰囲気を肌で感じてみたいと思っています。

滋賀医科大学　医学科第１学年　佐々　和代

湖東地域に実際行くことができなかったことは残念ですが、４つすべての施設のお話を聞けたことは勉強になりました。中核病院、診療所それぞれが地域に根差し、近隣住民の健康と生活を守っていることを学びました。また、地域の方々が安心して在宅療養で過ごせるように、訪問診療を開業医の方々と連携しておこなっているというお話は大変興味深いものでした。機会があれば、湖東地域を自身の目で見てみたいと思います。大変貴重なお話ありがとうございました。

滋賀医科大学　医学科第１学年　小泉　裕

宿泊研修の予定だったがコロナ感染拡大の影響を受けてオンライン研修となってしまったので実際に病院や彦根のほうを訪問することができず残念でした。しかし、オンライン研修で４つの施設から貴重なお話を聞くことができてよかったです。４つの施設はそれぞれ場所や担っている役割が異なっていましたが同じ地域医療を担うという点ではかぶっているところもあり、特に在宅医療についてのお話はとても参考になりました。この学びを今後に生かしていきたいです。

滋賀医科大学　医学科第１学年　本田　大貴

今回のオンライン研修では、彦根市、米原市方面の四施設の医療施設のお話を聞き、この地域について理解を深めることができた。四施設とも彦根市、米原市の地域医療に携わっているが、それぞれ機能や役割は異なっていることが分かった。私はそれならばこれらの施設の連携を深めていくべきだと考えたが、彦根市立病院の方のお話からそれは簡単なことではないとも分かった。だからこそ私は地域医療を深く学び、施設ごとの連携を成り立たせる方法を考えていきたい。

滋賀医科大学　医学科第２学年　松山　峻大

今回の里親研修はオンラインで行われたが、オンラインだからこそ、全ての病院の先生方のお話を伺えたし、他の参加者の人たちの意見も聞けたので良かった。最近「今、目の前の１人の患者さんよりも、10年後の１万人を救いたい」という言葉を聞く機会が増えた。確かに、後期高齢化と医師不足が相まり、より多くの人を救うシステムや技術は必要なのかもしれない。しかし、それの土台になっているのは、「今、目の前の１人の患者さんを救う」という姿勢であることを、改めて認識した。

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学　医学科第２学年　迫　未尋

私は滋賀出身ですが、南部の方なので、今回の彦根や米原地域のことはあまりよく知らず、今回の研修で初めて聞く病院名や地域の特徴もたくさんありました。地域のことと、医療機関同士の関係性なども知ることができ、すごく勉強になりました。

実際に訪れたかった思いもありますが、凝縮した形でそれぞれのお話をまとめて聞けたことで、かえってそれぞれの特徴や関係のようなものを比較する見方ができたように思います。医療機関ごとに色々な役割があって、一口に医師になるといっても、どこでどんな役割を果たすかは本当にそれぞれなのだと思いました。もし機会があれば、ぜひ訪れたいです。

滋賀医科大学　医学科第３学年　多賀谷　光

今回の研修では、湖東保健医療圏と湖北保健医療圏にある病院、医院を見学させていただきました。

同じ滋賀の中でもこれらの地域には、冬に冷え込み、降雪がみられ、大津や草津とは地理的側面だけみても、おおいに質を異にすることがわかりました。

４つの大きな病院を持つ湖東医療圏では、４つの病院が手を取り合いその負担を減らす工夫がみられました。その発起には、気づいた者が行動に移すという精神が重要であったという背景を伺いました。病病連携の難しさを知りました。

地域社会と医療との結びつきが顕著に表れているのが湖北医療圏でした。地域包括ケアを高齢者だけでなく、小児に拡張していく「ふくしあ」さんの考え方は、持続的な地域社会の形成につながるのではないかと考えました。

本来はバスで現地に伺いたかったのですが、それでも非常に考えさせられる内容の研修でした。ありがとうございました。

滋賀医科大学　医学科第３学年　福士　瑠奈

急性期医療と退院との間を繋ぐものとしての地域包括ケアという内容が印象に残った。ちょうど他のへき地診療所の見学をしてきた後だったため、そこの共通点や違いを知ることができて勉強になった。医師にとっては「患者が退院した後は医師は関係ない」という考えを捨てる点が重要だと感じた。

滋賀医科大学　医学科第４学年　吉村　碧海

宿泊研修までは、回復期や慢性期における病院や診療所の役割や、急性期病院と他の病院や診療所との連携についてイメージがついていなかったが、今回の研修で湖東・湖北地域の特色も含めて学ぶことができたのが良かった。今回オンライン研修となってしまい、実際に現地を見ることができなかったのは残念だったが、現地での研修であれば一部選択しなかった施設には行くことができなかったのに対し、４施設すべてのお話を聞くことができたのは大変良かった。

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学　看護学科第１学年　鈴木　志和

今回の研修では医療スタッフの数が足りていない中、各病院が急性期、回復期などの役割を分担することで広い地域の隅々に医療を提供していることを知りました。また、介護者が休息するためのレスパイト入院が導入されていることを知り、時代の流れにあった新しいシステムが構築されているのだとわかりました。今回研修してくださった病院の方々は暖かく、現在ある医療をさらに良くしていこうという情熱を持った人ばかりでした。お忙しい中、貴重なお話を聞かせていただいてありがとうございました。

滋賀医科大学　看護学科第２学年　平松　淳沙

地域包括ケアという言葉がどの病院や施設のお話からも出てきており、それぞれの施設での役割は違うが今後地域包括ケアをより推進していくことが大切だと感じた。在宅診療で特定行為を行える看護師が活躍していると言う話や、医師不足のお話もいくつかの病院から出てきており、より特定行為を行える看護師が必要になってきているのだと言うことを学ぶことが出来た。私自身そういった専門的な知識を持った看護師に成りたいと以前から考えていたが、今回の研修を通して改めて将来どういった看護師になりたいのか考える機会となった。

滋賀医科大学　看護学科第１学年　上羽　もえ

まだ実習で病院にお伺いしたことがなく、病院の知識をなんとなくでしか知りませんでした。しかし、今回多様な方のお話を詳しく聞くことができ、病院という括りでは同じだけれど、急性期や回復期といったように特色があること、話してくださる方の雰囲気がいい意味でそれぞれ異なることなど普段の授業では学べないことを学べたので良かったです。また、これから将来、自分がどのように働きたいのかを考えるためのいい経験になりました。貴重なお話をありがとうございました。

滋賀県立大学　人間看護学部１回生　大坂　穂乃佳

今回の夏の宿泊研修を通して学んだことは、地域包括医療を大切にされている病院が地域の人たちにとってどのように貢献しているのかということです。地域包括医療の病院は赤ちゃんからお年寄りの方までを対象とし、様々な病気を診るということを主な業務とされていますが、それ以外にも健康診断をしたり、地域の行事に参加したりされているということを知りました。それらのことにより、地域の人たちと病院が密接に関係を築くことができるのだということに気づきました。

地域の人たちと病院の間に強い結びつきができると、病院嫌いが減り何でも相談しやすくなるのかもしれないと考えました。私は、将来は滋賀県の病院に就職したいと思っているので、今回少しでも滋賀県の医療について知ることができて良かったです。今後も研修に参加して、滋賀県の医療について深く学んでいきたいです。

滋賀県医師キャリアサポートセンター

（滋賀県地域医療支援センター）

当センターは滋賀県健康医療福祉部医療政策課と滋賀医科大学医学部附属病院が共同で設置し、滋賀医科大学医学部附属病院には専任医師を配置して医師のキャリアサポートを行っています。

○滋賀県医師キャリアサポートセンター懇談会

・医学生、看護学生、研修医を対象に行っている１時間程度の懇談会（講演会）です。
・滋賀県で活躍する先輩医師が講師となって、これまで医師としてどのようなキャリアを積んでこられたのか、滋賀県で働く魅力とは何かなど様々なテーマに関してお話ししていただきます。
・医師のキャリアプランについて理解を深め、滋賀県で働く魅力を発見することを目的として、平成26年度より実施しています。

【開催時期】　５月から翌年１月（年４～５回程度）
【開催場所】　滋賀医科大学講義室等　※オンライン配信有
【実施済テーマ】『ちょっと予定とは違ったけれど、滋賀県で産科医をやっています』
『地域医療でのリーダーシップについて』『人間万事塞翁が馬』
『女性外科医師の歩みと医師会の役割』『大学病院で働く医師のキャリア形成』

2022年度 第３回　“ビッグデータ”の知識・スキルが、なぜ今の医師には求められるか

講師：矢野　裕一朗先生　（NCD疫学研究センター最先端疫学部門・教授）
日時：令和４年11月29日㈫　18:00～

健康・医療データを本人へ還元し、本人の望む様々なサービスを受けられる環境を実現することについてお話をいただきました。また、地域枠で入学した学生からの質問に対しても、自治医科大学ご出身の経験から、へき地医療と研究の両立の話をアドバイスいただきました。

【学生の感想】
・普段の医学の授業では習わないような話を聞けて面白かったです。医療は様々な人を相手にする行為であるので、いろいろなデータが集まっていくのは達成感があって面白いのかなと感じました。未来の医療がどのようになっていくのか、とても楽しみです。
・将来、虐待防止に関わる分野で医療に携わりたいと思っていたので、ビックデータという新しい視点を得られたことが有難かったです。ビックデータは、未知の分野に今後挑む全ての分野にとって必要だと思いました。

◆◆懇談会開催予定◆◆
第４回　令和５年１月31日㈫17:00～
場所：滋賀医科大学　一般教養棟２F　第２講義室
講師：大町　玲雄先生
（彦根市立病院在宅診療科/自治医科大学卒）

お問い合わせ先
滋賀県医師キャリアサポートセンター
滋賀医科大学クオリティマネジメント課内（附属病院　４階）
住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
TEL：077-548-2826
E-mail：ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp
相談窓口も設置しています。
詳しくはキャリサポHPをご覧ください。

もっと詳しく▶　滋賀県医師キャリアサポートセンター https://www.shiga-med.ac.jp/~ishicsc/

入会・ご寄附のご案内

皆様からの会費とご寄附金を財源として活動を進めてまいります。出費がかさむ折とは存じますが「地域医療を担う医学生看護学生の育成支援事業」にご支援いただける方々のご協力をお願いいたします。

会員は

会員の種類		会　　費	入会金（初年度のみ）
正 会 員	個　人	年会費　2,000円　＋　寄附金 3,000円以上	5,000円
	団　体	年会費　5,000円　＋　寄附金 5,000円以上	10,000円
賛助会員		毎年 1,000円以上 できましたら 3,000円以上	

ご寄附・賛助会費をご入金された方は「税制上の優遇措置」【寄附金控除、または寄附金特別枠控除（税制控除）】を受けることができます。

ご入金された方には「寄附金の受領書」を郵送しますので大切に保管いただき、確定申告時には、「申告書」に「寄附金の受領書」を添え最寄りの税務署にご提出ください。

なお、詳細につきましては、最寄りの税務署にお問い合わせください。

編集後記

新年おめでとうございます。新型コロナ禍の中で４年目の新春を迎えました。終息の兆しはみえませんが、少しずつ日常生活を取り戻しつつあるように感じています。

今号で特集させていただいた夏の研修には、４年ぶりに滋賀医科大学以外の学生さんが参加してくれました。これからもたくさんの学校から参加していただいて、交流を深めていきたいと思います。将来滋賀県で働きたいと考えている医学生・看護学生の皆さん、参加をお待ちしています。県民の皆さま、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでる」vol.21

発　　行：2023年１月15日
編　　集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構
所 在 地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
ＴＥＬ：077-548-2168
ＵＲＬ：http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/